

(公財) 広島県サッカー協会  
女子委員会審判部長 竹下聖

#### 【女子審判員、ユース年代の審判員の現状と課題】

広島県では、全登録選手の70%（内ユースは82%）が審判資格を取得しており、日頃のリーグ戦や大会で帯同審判をしている状況である。ただ、上級審判員は少なくほとんどが4級審判員であり、準決勝や決勝となると男子審判員を派遣しなければならないのが現状である。

#### 【女子審判員、ユース年代の審判員の発掘・育成に向けた取り組み】

様々なカテゴリーで試合数も増える中、「女子の試合は女子審判員でできるようにしなければならない」と考え、まずは6月に行われる高校女子の県予選の副審をユース審判ができるよう、各会場で行われる練習試合にインストラクターが出向き、副審の実践指導を行う取り組みを始めた。

コロナの影響もあり、残念ながら高校女子県予選ではユース副審を割当てることができなかったが、U15女子年代の試合である「HiFA 平和祈念 2021 Balcom BMW CUP 広島女子サッカーフェスタ」の開催が決定した為、副審はユース審判で可能ではないか、審判をきっかけに女子審判員に興味を持つ選手が増えないかと思い、「全試合を女子審判員で行う」事を各方面へ提案し理解を求めた。

主審は上級審判員へ協力を依頼したが、登録チームに審判希望を募ったところ、ユース審判員に希望者が数名おり、全試合を女子で割当ることができた。

また、この大会がユース審判員の目標になればとも思ったので、3月に3級に昇級したユース審判を主審に割当、ユース審判団として初日のオープニングゲームを行った。主審は、割当から約1ヶ月、インストラクターの指導のもと、様々な練習試合で経験を積みこの舞台に立っていた。笛の音でその自信を感じられるほど堂々としたレフェリングであり、ユース審判の目標となる試合となった。試合はどのチームもフェアでタフなプレーをしており、また審判員をリスペクトする姿勢も感じられ大変意義のある大会となった。参加したチームの選手、指導者に深く感謝したい。

試合後の反省会では、「緊張はしたが機会があればまたやってみたい」、「いい審判がいいゲームを作る事がよくわかった」等の感想とともに、「あの時はどうすればよかったですか」と質問する審判もいました。

私たちが思っていた以上に、ユース審判員は頼もしく、指導をすればもっと成長できると感じました。

大会終了後に実施したアンケートでは、ユース審判が4名昇級希望を申し出ており、この選手たちが審判と両立しながら活動を継続できるよう、今後もチームと連携を取っていきたい。

